

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.54

(令和6年1月発行)

## 新年を迎えて思うこと！！

新年あけましておめでとうございます。今年も穏やかな新しい年を、迎えることが出来ました。今年も、幸せな年でありたいと思います。しかし、心配事もいっぱいあります。ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ問題。早く解決して欲しい。身近な問題では昨年の10月までの猛暑、そして11月では秋が無く、夏であったり冬であったりする異常な気候。地球温暖化の影響による異常気象の発生で、食糧の生産量や漁獲量の変化など様々な問題が出てきています。我々にとって大事な事は、これらの事が他人事と思わないで、我々一人一人が自分の事として、可能な事を可能な範囲で対応しなければならないと思います。

今年辰年。気がついておられるでしょうか。干支の中でも辰(龍)だけが架空の動物です。他の干支は実在する動物です。龍は中国では、古来から力の象徴とされ、縁起のいい生き物とされています。いい年になることが期待できそうです。辰年生まれの人は先見の明があり、人の先を行く。そして周辺に多くは語らないが、スケールの大きい夢を持っている人が多い。リーダー的な人が多いそうです。

辰年生まれの人は、日本の人口では約1,016万人(23年5月)。栃木県でも約14万9千人(23年10月)おられるそうです。辰年生まれの皆さんにとっても、いい年であることを祈りたいと思います。そして、今年、いろいろな問題に解決の目途がつく年に、なってほしいと思います。令和6年、最初にご紹介するのは、以下の3名です。



① 有岡さん



② 大根田さん



③ 岩崎さん

① かたりべは、私のライフワーク

有岡 光枝さん

② 今が最高！

大根田 光枝さん

③ 忙しくても毎日が楽しい日々、生きがいのある日々

岩崎 勇さん

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）

住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口

電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575

ホームページ：<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

みやシニア活動センター通信 - 1 -

## ① かたりべは、私のライフワーク

有岡 光枝さん

取材：駒田特派員



口元に優しい笑みを浮かべながら、淀みなく飛び出して来る民話の数々。今回ご紹介するのは、「宮のかたりべ」有岡光枝（ありおか みつえ）さんです。

半年ほど前、初めて彼女の語りを聞く機会に恵まれました。その時は、宝木地区で行われた集いでしたが、なぜ、この場所に宝木と言う地名が付けられたのか・・・また、大谷の観光名所「天狗の投げ石」についても、その伝説的由来などを語っていただきました。身近なことの背景を知る楽しさに、あっという間の1時間が、過ぎてしまいました。クリアな発音と滑

舌の素晴らしさにも、驚嘆の念を覚えたほどです。

民話との出会いは、今から約15年前にさかのぼります。仕事をリタイアした後、「何か楽しみながら出来ることはないかな？」と自分にヒットするものを探し、あれこれと生涯学習の講座に通っていた時のことです。当時、栃木県立博物館の学芸部長だった「柏村祐司（かしわむら ゆうじ）」先生の講座との出会いが、その後の人生を傾けるまでとなった「かたりべ」への誘いとなりました。既に「下野民話の会」を立ち上げていた柏村先生が、宇都宮北生涯学習センターで開いた、民話の講座に参加したところ、その奥深さを知ると共に「自分が探し求めていたものはこれだ！」と感じ、心を持って行かれることに。

民話は大きく分けると、「昔話」「伝説」「世間話」など三つに分けられるそうです。「昔話」は、本当にあった話とは思われない話ですが、時代を超えて人々に共感を得る高い文芸性と庶民の生活の知恵や倫理性があり、子どもたちに自然や生き物を大事にする心を育んでくれるもの。そして何より想像力を豊かにしてくれるもの。

「伝説」は大人に好まれた話で、郷土愛やふるさとを誇りに思う心と共に、先人たちへの尊敬の念を育ててくれる。それぞれ違った味わいを持ちながらも、いずれもが「口承文学」であることに感銘を受け、受講終了後すぐに「下野民話の会」の一員となった有岡さん。「本を読んでそのまま原文通りにただ語るのではなく、再話と採話という過程を踏んでから、自分の言葉で語る」という、かたりべをする上での核となる心構えを教えてくださいました。本の通りの文章では伝わりにくいものを、時代や伝える相手に合わせて、分かりやすく書き直す作業をして出来たものが再話。特に「伝説」は、必ず現地に行



行ってその話を聴いてくる。話を採取（採話）してから、再話を行っているそうです。

有岡さんのスケジュール帳は、余白が見えないくらいに予定が書き込まれており、如何ほどの活躍をされているかが、一目で分かります。宇都宮市のシティガイドとして、民話を織り込んだ宇都宮案内をされるほか、市内の小学校で「宇都宮学」という授業の先生も務めています。実際の授業に私も参加させていただいた時、言霊の宿った語りに心を奪われました。そして、子どもたちは生き生きとした表情で、耳を傾けていました。有岡さんは「宮のかたりべ」として、これからも多くの方々に言霊を届けて行くことでしょう。

末永いご活躍を願っています。

## ② 今が最高！

大根田 光枝さん

取材：肥後特派員



大根田光枝さんは昭和16年生まれ、今年82歳になりました。小柄な元気印の張り切りおかあさんです。車も自ら運転します。宇都宮市内はもちろん、栃木県内も愛車のNボックスを走らせます。それだけでなく、戸祭1丁目のご自宅から、東武デパートやJR宇都宮駅まで3kmでも4kmでも歩くのは平気です。大根田さんから「私の人生は3期に分けられる」と伺いました。好きな事をして毎日を謳歌していた第1期。苦労したこともあったけど人として成長した、そしてご主人に感謝の日々の第2期。2度目の独身時代の第3期。今回はこの3期に分けて大根田光枝さんをご紹介します。

### 〈第1期〉

大根田光枝さんは栃木市出身です。高校時代は勉強よりも山登りやスキーなどスポーツ三昧の日々でした。日光が大好きな大根田さんは、休みのたびに出かけていました。日光は実家から東武線で1本です。卒業後も日光周辺を歩き回る日々でした。おしゃれを意識しない青春時代でした。それでも2年程東京の洋裁学校に通い、デザインや縫製を学びました。

### 〈第2期〉

結婚は大根田さんが26歳の時でした。ご主人は31歳。いきなり7人家族の中に飛び込みました。大所帯を、持ち前の馬力と明るさで切り盛りしていきました。ご主人の仕事は測量業で福島県の山間部を測量して回ります。1ヵ月かけて同じ現場を測量して回ります。大根田さんは手伝う為に一緒について行きました。山の中での測量でしたが、独身時代の山好きが功を奏しました。ご主人は司法書士の資格もあり、測量してその後登記します。大根田さんは「補助者」に登録され登記関係の仕事も関わっていきました。いつもご主人と一緒に生活でした。ご主人は大変愉快で豪快な方でした。バブル期は、測量の仕事が舞い込み全国を駆け回りました。そんな中、おいしいラーメンが放送されるとラーメンを食べる為だけに新幹線に乗り東京に行き、北海道の紅葉がきれいだとわかると車を走らせ、また、流氷が接岸したと聞けばこれもまた直ぐに車を走らせます。勿論、ご夫婦2人一緒です。

平成2年、50歳の時に前任者に推薦され民生委員に任命されました。戸祭地区の約200戸を担当しました。ご主人の後押しもあり順調でした。

### 〈第3期〉

平成25年シルバー大学校中央校に35期生として入学しました。そこで多くの友人に恵まれました。お出掛け、おしゃべり、ランチや旅行。何十年振りかの学生生活は最高でした。お陰で卒業後8年経った今でも、大根田さんの手帳はスケジュールで真っ黒です。平成27年には、民生委員の功績で厚生労働大臣賞表彰を受けました。この時、ご主人は入院中で表彰式と一緒にいく事は出来ませんでした。そして、令和元年には藍綬褒章を授与されました。ご主人は3年前に他界されていきました。「藍綬褒章の褒章伝達式にご主人と一緒にできたかった。見せたかった」そのように言われます。残念だったことでしょう。旅行好きの大根田さん。G7伊勢志摩サミットの行われた伊勢志摩観光ホテルに、今年も行ってきました。実は、ここは新婚旅行で行った思い出のホテルです。銀婚式の時は、2人で行きました。しかし、金婚式の年は遺影を持って一人でした。そして今年・・・。



(19歳頃の大根田さん)

今後は、充実した生活を続けることが目標だそうです。目指すは100歳です。



今回は岩崎勇さんを紹介します。岩崎さんは宇都宮市生まれ、宇都宮市育ちです。田野町で、幼少時を過ごされました。現在の森林公園や古賀志山が、岩崎さんの遊び場でした。小さい時から自然の中で過ごし、そして遊んできた経験が、岩崎さんの現在の芸術的なセンスを育ててきたのではないのでしょうか。現在71歳。まだまだ若手です。とてもエネルギーが豊富です。

岩崎さんと言えば、まず陶芸との関わりの話をしないとなりません。出来上がった器に美味しい料理をのせて、食卓を賑わせたい。そして、家族と楽しくにぎやかに食事をしたい。これが岩崎さんの陶芸を始めた原点です。

シルバー大学36期生として入学されました。ここで、陶芸の取組みが始まりました。そして、現在まで陶芸クラブOB会の会長として10年近く関わっておられます。この陶芸会ではご自身の陶芸の製作はもちろんの事、後進の指導育成や、高齢者の生きがい作りの一環としても活動されています。初心者には陶芸は難しい。粘土のこね方はどうする？力加減はどのくらい？作っていく要領がわからないなど、難しいという印象があるのではと感じます。粘土はすぐ乾いて硬くなってしまいますので、絶えず気を使っていなければなりません。出来上がったイメージと、違ったものになっていたり満足したり。そのうちに腕も上達してきます。昔のことわざに「習うより慣れろ」というのがあります。次はどんなものを作ろうか、色はどうするか、形や大きさはどんな風にするか。迷いますが、手が覚えて要領が少しずつ分かってきます。「気に入った作品を、一つでも多く作って欲しい」と言われます。

秋には毎年陶芸クラブとして、栃木県総合文化センターで作品展を行っています。どの作品も丹精込めた力作揃いで、毎年多くの方が見に来られます。そして、玄人はだしの腕前に感心されて帰られます。また、年1回の研修旅行も、今年は会津方面へ行き、多くの陶芸家の作品見学などで、親睦を深める事が出来ました。

岩崎さんは、ご自身でも数々の作品を作っておられました。陶芸部門で平成20、21、22年に栃木県芸術祭で入選されました。同じく21、22年には栃木県美術作家連盟展の工芸部門で入賞されました。展示会場に展示されている大きな壺や鮮やかなオブジェは、見る人の目を一段と引き付けます。岩崎さんは、別の顔をお持ちです。明治時代に創業の庭師の家にお生まれになり現在三代目としてご活躍されています。平成元年に技能検定一級の資格を取得されました。また、日光の「東武ワールドスクエア」において日本ゾーンの植木の景観全体を請け負いました。清水寺、二条城、東大寺などの植木は、岩崎さんが一人でコツコツと作ってこられたそうです。その他、栃木県内や宇都宮市内の公共施設、神社仏閣を手掛けておられます。主に「松」を担当されているそうです。そのほかにも、いろいろ役職も兼ねておられます。城山中学校地域協議会の副会長として活動されてきました。地域ぐるみで、学校・家庭・地域が連携して、地域に根ざした学校作りを推進する取組みを行っています。栃木県青少年育成県民会議では子ども育成・憲章功労者表彰を受けています。これからも陶芸の製作や後進の指導や地域ボランティアの協力、ご自身の庭師としてのご活躍を、期待しております。



(栃木県美術作家連盟 奨励賞)